

名古屋SF読書会18グラン・ヴァカンス 飛浩隆 2024・6・30

名古屋SF読書会URL <http://www.ne.jp/asahi/science/fiction/dokusyokai/>→<https://sciencefiction.ddns.net/sf2/> (変更)

【あらすじ】

仮想リゾート〈数値海岸（コスタ・デル・ヌメロ）〉には、それぞれの特色をもった〈区界〉が数千も存在し、五十年の間、多数のロールAIが、ゲストとして訪れる人間をもてなしていた。ところが、ある日、大途絶（グランド・ダウン）と呼ばれる事件が起き、それ以降ゲストは来なくなる。何が起きたのかはまったくわからず、ただゲストの来訪だけが途絶えたのだ。ロールAIたちはゲストなしで役割をこなし続け、いつしか千年の時が過ぎた……。

第一章 不在の夏

南欧の小さな港町をイメージしてデザインされた仮想リゾート〈夏の区界〉で、12歳の少年ジュール・タピーは、16歳の少女ジュリー・プランタンとともに〈鳴き砂の浜〉へ硝視体（グラス・アイ）をひろいに行く。区界の物体や現象に働きかけて、因果律を超えた現象を起こす力をもつ視体は、浜でよく見つかるのだ。二人が視体を探しているとき、突如として、区界の修理屋である〈蜘蛛〉とは異なる〈蜘蛛〉たちが空から無数に降下し、区界を食べ始める。

第二章 斃す女、ふみとどまる男、東の入り江の実務家たち

身長190センチ超、七人の養子を育てる未婚の漁師アンヌ・カシュマイユは降下した〈蜘蛛〉を一匹倒し、東の入り江に向かう。西の入り江の役場は〈蜘蛛〉に食われ、東の入り江の鉱泉ホテル（オテル・ド・クレマン）が臨時の庁舎となる。西と東をつなぐ辻で、ジョゼ・ヴァン・ドルマルが逃げてきた人々に指示を出し、ぎりぎりまで辻にとどまる。ホテルでは、役場の助役バスタンと元職員ベルニエが指揮を執り、盲目のレース編みイヴェット・カリエールが協力する。ジュールとジュリーはアナ、ドナ、ルナの三姉妹を〈蜘蛛〉から助け、ともにホテルに到着する。

第三章 鉱泉ホテル

ジュールは〈蜘蛛〉と戦う戦法を考え、ホテルに視体を使った「罾のネットワーク」を張り巡らす。蜘蛛の糸を素材にしてイヴェットと三姉妹が作り上げたレース編みにより罾は完成。ジュールはホテルで老人となった自分に出会う。

第四章 金盞花、罾の機序、反撃

ゲストが来ていた頃のジュリーの思い出が語られる。ジュリーは金盞花（スウシー）という名の兎を飼っていたが、ゲストの「父」（天才ハッカー少年）の企みにより、スウシーは無残な最期を遂げる。ホテルでは、罾のネットにおいて一万個近い視体を取り込む官能はすべて視体〈クリスタル・シャンデリア〉に流れ込む。仮想空間の中に仮想世界が築かれ、その中心にイヴと三姉妹、ジュリーがいる。罾のステラを通じて〈蜘蛛〉がホテル内に入り込むが、トイレで捕獲する。罾は機能しているが、ホテルの外にいたピエールが消滅するなど、ほころびも生じつつあった。

第五章 四人のランゴ-二、知的な会話、無人の廊下を歩く者

ピエールは愛の寝室で、身長3メートルの巨人ランゴ-二に生きたまま食われる。老ジュールはジュールに視体にも視えないものはあり、視体は万能だが全能ではないと語る。ジュールは、イヴの夫フェリックスに叩かれ、食事をして、痛覚や味覚などの感覚が増幅されていることに気づく。硝視体の小部屋で待機していた女はランゴ-二にマリアと名づけられる。マリアは〈ファミファタル〉の表象であったが、ランゴ-二によって不活性化されてしまう。ジョゼはホテルのテラスで少年ランゴ-二に会う。ジョゼは少年と会話を交わしながら、少年がゲストではなく、別の区界から盗掘に来たAIだと推測する。フェリックスは微細な〈蜘蛛〉に取りつかれ、廊下を歩きながら身体を糸として巻き取られていく。わたし（ランゴ-二）がそれをすべて持ち去る。

第六章 天使

ホテルの支配人ドニは、大途絶までのゲストの記録が記された帳面をすべて焼く（データベースを破壊する）。ここでホテルの創始者クレマン家の歴史が語られる。ジョゼはランゴ-二と会話を続け、この罾のネット自体がランゴ-二によって計画されたものと気づく。ランゴ-二はジョゼの右目をピエールの目と入れ換え、官能の品位が上がっているのは、〈蜘蛛〉が〈夏の区界〉を九割方食べてしまったからだと告げる。ジョゼは夜空に浮かぶ鯨と飛行船との戦闘を見せられる。鯨から出てきた無数の雪片が飛行機械を無力化していく。その雪片は、〈天使〉と呼ばれるガラスのようなマネキンで、首がなく何十本も腕をもったもの、尻とふとももだけのもの、頭部を連ねたもの、など様々な形をしていた。鯨の背には鉱山都市と巨大な目があった。マリアを通じてトイレに現れたランゴ-二は、船大工のルネに細工をほどこす。コックのジョエルはステーキを焼いていたが、それがフェリックスの顔に変わり、逆にジョエルの顔が焼かれる。ジュリーはホテル内の異常に気づく。イヴの右目にちいさな瞳孔が生じる。〈天使〉とは一種の災害でコントロールできない。ランゴ-二は、〈天使〉に対抗するため、ここにやって来た。ランゴ-二はジョゼと一つとなり、罾のネットの中に入る。

第七章 手の甲、三面鏡、髪のアブジェクト

森から帰って来た男たちは十人で一つの球体を作り、町の助役パスタンはそこに飲み込まれる。球体は苦痛を薄めようと他の人間を取り込むが、かえって苦痛が増してしまう。人体球は形を何百もの指をもつ手に変え、ホテルの壁を這い上がる。手の甲には目と口を綴じられた男たちの顔が嵌めこまれている。／ホテルの破壊が徐々に進み、ジュールとジュリーは客室階で、ルネの顔や〈ファミファタル〉の唇を乗せた蜘蛛とAIの融合体に襲われるが、視体〈コットン・テイル〉の力で脱出する。／イヴの目の中の瞳孔はランゴニーの破壊装置であり、イヴの眼差しを通して罌のネット中にばらまかれる。／三姉妹は視体〈三面鏡〉の力を借りて、ランゴニーからイヴの位置を探り出し、裁縫室へ行く。暗色の瞳孔はイヴの目を食い尽くし、糸を出す。それはフェリックスの髪の毛だった。イヴは球体に変形し、眼球のようになる。／ジュールとジュリーはクレマン家のメモリアルホールへ移動する。

第八章 年代記、水硝子、くさび石

クレマン家の年代記に、ホテル開業より50年前の地質学者とクレマン家当主の妻との血なまぐさいロマンスが記されている。他にも刺繍の得意な農婦の話など恐るべきエピソードが多数設定されている。〈夏の区界〉は、古き良き時代への懐旧の思いとイノセンスを踏みにじりたいという嗜虐性とのバランスの上にプレゼンされたアトラクションだった。ランゴニーはこれを利用して苦痛の集積体「苦痛の宝冠」を作ることを目的としている。／伊達男ランゴニーは、海のテラスでアンヌと戦う。アンヌには性器がなく、そこにナイフを突き立てられることにより感覚が開放される。ランゴニーはナイフを使ってアンヌを倒し崩壊させる。／ジュールとジュリーはメモリアルホールで激しく愛をかわす。鉱泉ホテルはついに崩壊を始め、過去に実際にあった「ホテルの記憶」が再現され苦痛が充満し、水硝子となっていく。／老ジュールと三姉妹がジュールとジュリーを守っていた。二人の関係は重大なタブーであり、これを破らせる必要があったと老ジュールは語る。四人は〈鳴き砂の浜〉へと脱出する。／ジョゼの胸の小ランゴニーの顔は弟マルタンの顔に変わり、白いコートの女に弟が殺された記憶がよみがえる。ジョゼは区会の政治的中心であり、内部に封じられた記憶が無数にある。大ランゴニーはジョゼの記憶をよみがえらせ、苦痛を得る。ジョゼは「苦痛の宝冠」の楔石となる。

第九章 ふたりのお墓について

鉱泉ホテルは、硝子化した枝を積み上げたような森となった。ジュールとジュリーはその中でイヴに会う。イヴからランゴニーが現れ、ジュリーはともに森の中に入る。残されたジュールは、老ジュールと話し、兎のスウシーを殺した「父」は自分であったことに気づく。同時に老ジュールは消滅し、ジュールはジュリーを追う。森の中に閉じこめられたAIは硝視体を持っていたが、ジュールが拡大して見ると、その上には天使が乗っていた。ジュールはジュリーを見つけ、「姉さん」と呼びかける。／かつてジュリーはジョゼとともに、一對のくじらの耳飾りをマルタンの墓として作り、いつか一緒に死のうという約束をした。ジュリーは約束を果たしに来たのだ。

第十章 微在汀線

ジュールはジュリーに追いつくが、ジュリーは楔石となったジョゼとともにいると言う。少年ランゴニーが現れ、まだ状態が安定していないと告げる。労働と友誼を司るジョゼと性愛と慰撫を司るジュリーは互いに惹かれ合うが、カタストロフを繰り延べるため、妨害者としてジュールとアンヌが設定されている。ジュリーがジョゼとともに楔石になることにより、「苦痛の宝冠」は完成する。これは、天使を捕獲する罌であり、内部に天使像があるのは、罌を抗体として正しく機能させるためである。蜘蛛の攻撃により、ジュールは右目を失い、そこに視体〈テイル〉が嵌まることで、ジュールは〈流れ硝視（ドリフト・グラス）〉となる。ジュリーは、ジュールと最後の会話を終え、崩壊する。／〈鳴き砂の浜〉でジュールはジュリーとアンヌ、他のAIの墓を作る。〈テイル〉はいつの間にかジュールから消え、老ジュールが現れ、鳴き砂の正体を語る。鳴き砂は、大途絶時に粉々に破壊された人間の情動的似姿（エージェント）であり、硝子体は鳴き砂から生まれる。ジュールの中には〈テイル〉の力が格納されている。老ジュールは浜に残り、ジュールは小舟に乗って海へと旅立った――。

他の区界紹介（作品名） ※数値海岸には1万を超える区界が存在します。ここに紹介するのはそのほんの一部です。

オムニトウリー

- 汎用樹の区界（「蜘蛛の王」）……世界を貫く巨大な汎用樹が中心の区界。ランゴニーはこの区界の王だった。
- ズナムカ（切手の意味）（「魔述師」）……区界を超えて移動できる〈鯨〉を育成する区界。中欧の古都に似る。
- ワイキキの冬（「クローゼット」）……20世紀初頭の光景を廃墟趣味で塗り替えた区界。安価な背景描写しかない。
- 青野の区界（『空の園丁』）……1977年4月の日本。園丁たちが〈天使〉を撃退した戦災の歴史を持つ。
- 多頭海の区界（『空の園丁』）……〈数値海岸〉最古の区界。ランゴニーはここに〈苦痛の宝冠〉を運び入れた。



早川書房 2002年9月
表紙：岩郷重力+WONDER WORKZ



ハヤカワ文庫 JA
2006年9月
表紙：塩田雅紀



ジュールとジュリー (磯光雄・画)
早川書房『Sync future』より



少年ランゴニー (磯光雄・画)



アンヌ
(磯光雄・画)

名古屋 SF 読書会

初心者からマニアまでをモットーにやさしく丁寧、かつ面白い読書会を目指しています。

<https://sciencefiction.ddns.net/sf2/>

【今までの課題本】

- 2014・11・22/ル・ゲイン『闇の左手』
- 2015・2・15/ベスター『虎よ、虎よ!』
- 2015・7・26/ブラッドベリ『華氏451度』
- 2016・1・23/イーガン『ゼンデギ』
- 2016・4・29/ハインライン『宇宙の戦士』
- 2016・7・30/ベイラー『カエアンの聖衣』
- 2016・11・23/レム『ソラリス』
- 2017・4・30/ノース『ハリー・オーガスト、15回目の人生』
- 2017・8・5/ディック『アンドロイドは電気羊の夢を見るか?』
- 2017・12・2/伊藤計劃『ハーモニー』
- 2018・4・29/オールディス『地球の長い午後』
- 2018・7・21/小松左京『日本沈没』
- 2018・12・22/ウィンダム『トリフィド時代』
- 2019・4・27/山田正紀『宝石泥棒』
- 2019・8・3/クラーク『2001年宇宙の旅』
- 2019・12・22/劉慈欣『三体』
- 2021・10・3/劉慈欣『三体Ⅲ』(オンライン)

スタッフ&ゲスト紹介

名古屋SF読書会は初心者からマニアまでをモットーにやさしく丁寧、かつ面白い読書会を目指しています。今後もよろしくお願いたします。(文責・渡辺英)

長澤唯史 @Sonopapa

椋山女学園大学教授。著作に『70年代ロックとアメリカの風景』(小島遊書房/2021年)。今回は残念ながら欠席です。

舞狂小鬼 (洞谷)

SF、幻想小説、海外文学など何でも読みこなす読書家。作家ではレムとストルガツキー兄弟とバラードが大好き。ブログ「お気らく活字生活」継続中。今回は残念ながら欠席です。

渡辺英樹 @gonza63

7月末にハヤカワ文庫SFから出るキャサリン・M・ヴァレンテ『デシベル・ジョーンズの銀河オペラ』の解説を書きました。面白いので、ぜひ読んでください!

渡辺睦夫

海外SFファン。好きな作家はC・スミス、J・ティプトリー・Jr.、B・ベイラー、M・コーニイなど。洋楽ファン。好きなジャンルはパワー・ポップ、オルタナ・カントリーなど。

片桐翔造 @gern

元SFマガジンDVDレビュー担当。最近ご結婚されました。おめでとうございます!

渡辺啓一 @eleking

大学時代にSF研に在籍して基本を学び、あとはのんびりSFと付き合っています、とのこと。

中村融/なかむらとおる (翻訳家)

中央大学在学中より海外SFの研究、評論、翻訳など幅広い活動を行う。1987年にジャック・ヴァンスの「五つの月が昇るとき」で翻訳家としてプロデビュー。以降、新作の翻訳紹介、古典の新訳、SF/ファンタジーのアンソロジー編集など、多方面で活躍中。